

令和6年度(2024)の取組評価結果と令和7年度(2025)取組方針

資料3

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
地域住民の公共交通の満足度 【2020年】13.8% 【2026年】14.4% 【2031年】15.0%		「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査	【達成状況】 ・12.2%《2024年度》 【分析】 ・前年度より0.8%減少。運転士不足による減便等があったためと考えられる。	・路線再編やデマンド型交通導入等、地域の実情に合わせた運行形態や交通手段を検討する。さらに、低床化車両導入等、利用者の利便性向上に取り組み、満足度向上を図る。 ・運転士を確保するため、交通事業者による人材確保の取組を支援する。	・2022年度11.3% ・2023年度13.0%
路線バス・コミュニティバスの住民1人あたりの年間利用回数 【2019年度】9.25回/年 【2026年度】現状維持 【2031年度】現状維持	但馬地域公共交通計画の目標達成に向けて位置付けた各基本施策の実施	市町、交通事業者 所有データ	【達成状況】 ・9.63回/年《2024年度》 【分析】 ・2022,2023年度から年々向上し、2019年度の水準を超える。コロナ禍の外出自粛の影響が減ったことや、利用促進の各取組の成果によるものと想定される。	・2025年度は、公共交通利用者への助成事業や利用促進イベントの実施、セミナーやワークショップによる公共交通利用意識の醸成等を通して利用回数の増を図る。	・2022年度8.85回/年 ・2023年度9.21回/年
市町をまたぐ新たなバス路線数 【2021年】- 【2026年】2本 【2031年】3本	基本施策1 地域路線の再編 基本施策2 地域の実情に合わせた交通手段の導入 基本施策3 新たな運営方法を用いた公共交通の導入	計画策定以降に新たに運行する市町をまたぐバス運行の路線本数	【達成状況】 ・なし(検討・調整段階)《2024年度》	・2021年度に実証運行を実施。 ・2025年度は、利用可能性の検討および関係者調整を行う。	
公共交通空白地の割合(人口・面積) 【2015年】(人口)4%(面積)23% 【2026年】(人口)3%(面積)21% 【2031年】(人口)3%(面積)20%		バス路線情報、国土数値情報	【達成状況】 ・(人口)4%(面積)19%《2024年度》 【分析】 ・朝来市等で区域運行への移行があったため空白地面積が減少。	・2025年度は、地域の実情に合わせた交通手段の導入等により公共交通空白地の減少を図る。 ・さらに、福祉や教育分野等、他分野との連携による移動手段の確保に向けて検討を進める。	
路線バス・コミュニティバスのノンステップバス導入率(ワンステップバス等を含む導入率) 【2021年】31%(80%) 【2026年】36%(85%) 【2031年】40%(90%)	基本施策4 公共交通を安全・安心に利用できる環境の整備 基本施策5 交通結節点における利便性の向上 基本施策6 公共交通の利便性の向上	市町、交通事業者 所有データ	【達成状況】 ・41%(82%)《2024年度》 【分析】 ・ノンステップバス導入率は目標を達成。着実に整備が進んでいる。	・引き続き、低床化車両の導入を進める。	・2022年度35%(83%) ・2023年度38%(82%)
コミュニティバスの標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の整備市町数 【2021年】3市町 【2026年】5市町 【2031年】5市町		オープンデータとして公開している市町数	【達成状況】 ・5市町で整備されている《2024年度》 【分析】 ・2022年度に全市町において、GTFS-JPを整備、公表した。目標達成済み。	・2025年度は引き続き、ダイヤ改正等にあわせてデータの更新を実施する。	
高速バス・長距離バスの路線数・運行本数 【2021年】5路線 30本 【2026年】5路線 30本 【2031年】6路線 36本	基本施策7 広域的な公共交通ネットワークの充実 基本施策8 観光交通としての利便性向上	バス路線情報	【達成状況】 ・3路線14本《2024年度末時点》 【分析】 ・運転士不足により一部路線が運休。	・高規格道路の整備状況や運転士数の状況等を考慮し、今後の運行について検討する。	・2022年度 5路線16本 ・2023年度 3路線14本
高速バスストップの整備箇所数 【2021年】2箇所 【2026年】3箇所 【2031年】8箇所		バス路線情報	【達成状況】 ・変更なし(2箇所)《2024年度》	・高規格道路の整備に合わせて設置を検討中。 ・2025年度は、IC付近のバスターミナル及びパーク&ライド駐車場整備に向け調整を進める。	

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
たじまわりの利用者数 【2019年度】8,499人/年 【2026年度】9,000人/年 【2031年度】9,500人/年	基本施策7 広域的な公共交通ネットワークの充実 基本施策8 観光交通としての利便性向上	県所有データ	【達成状況】 ・10,849人/年《2024年度》 【分析】 ・2024/5/13～8/12の3か月間、たじまわりのWEB予約の大半を占めるじゃらん予約サービスが休止した影響で実績は微減しているが、当初目標は引き続き達成している。	・2025年度は、利用者実績の増加を目指し、JR、各市町、観光協会と連携したキャンペーン企画等を継続して実施する。	・2020年度5,314人/年 ・2021年度4,685人/年 ・2022年度10,710人/年 ・2023年度11,380人/年
各市町主要駅の乗降人数 【2019年】11,196人/日 【2026年】現状維持 【2031年】現状維持		国土数値情報	【達成状況】 ・9,505人/日《2022年度》	・二次交通対策として、駅前レンタサイクルを継続して実施。 ・JRローカル線維持・利用促進ワーキングチームや但馬地域鉄道利便性向上対策協議会において利用促進の取組を引き続き検討・実施。	・2020年度8,857人/日 ・2021年度8,566人/日
路線バス・コミュニティバスの収支率 【2019年度】コミュニティバス：(豊岡市)18% (養父市)19% (朝来市)12% (香美町)12% (新温泉町)11% 路線バス：52% 【2026年度】コミュニティバス：(豊岡市)19% (養父市)20% (朝来市)13% (香美町)13% (新温泉町)12% 路線バス：55% 【2031年度】コミュニティバス：(豊岡市)20% (養父市)21% (朝来市)14% (香美町)14% (新温泉町)13% 路線バス：58%	基本施策9 公共交通を担う人材の確保 基本施策10 公共交通の利用促進	市町、交通事業者 所有データ	【達成状況】 《2024年度》 ・コミュニティバス： (豊岡市)14% (養父市)13% (朝来市)4% (香美町)7% (新温泉町)7% ・路線バス：39% 【分析】 ・朝来市を除き2023年度と大きな変化はない。朝来市では2024～2025年度に交通体系再編のため経費が増加。	・2025年度は、公共交通利用者への助成事業や利用促進イベントの実施、セミナーやワークショップによる公共交通利用意識の醸成等を通して利用者数の増を図る。	・2023年度 コミュニティバス： (豊岡市)15% (養父市)15% (朝来市)11% (香美町)9% (新温泉町)7% 路線バス：38%
住民1人あたりの公共交通への公的資金投入額 【2019年度】4千円/人 【2026年度】現状維持 【2031年度】現状維持		市町、交通事業者 所有データ	【達成状況】 ・5.51千円/人《2024年度》 【分析】 ・2023年度より大きな変化はない。	・2025年度は、公共交通利用者への助成事業や利用促進イベントの実施、セミナーやワークショップによる公共交通利用意識の醸成等を通して利用者数の増を図る。	・2022年度5.25千円/人 ・2023年度5.57千円/人
鉄道の区間別平均通過人員・乗車人員 【2019年度】 山陰本線(福知山～城崎温泉)3,268人/日 山陰本線(城崎温泉～浜坂)693人/日 山陰本線(浜坂～鳥取)921人/日 播但線(和田山～寺前)1,222人/日 宮津線(宮津～豊岡)2,265人/日 【2026年度】現状維持 【2031年度】現状維持	基本施策9 公共交通を担う人材の確保 基本施策10 公共交通の利用促進	「データで見るJR西日本」、WILLER TRAINS 提供資料	【達成状況】 《2023年度》 山陰本線(福知山～城崎温泉)3,008人/日 山陰本線(城崎温泉～浜坂)574人/日 山陰本線(浜坂～鳥取)792人/日 播但線(和田山～寺前)1,047人/日 《2024年度》 宮津線(宮津～豊岡)1,887人/日 【分析】 ・前年度より城崎～浜坂間、宮津線を除き若干の増加。兵庫DC等利用促進による効果と考えられる。	・2025年度は、JRローカル線維持・利用促進ワーキングチームや但馬地域鉄道利便性向上対策協議会において、公共交通利用者への助成事業や利用促進イベント、二次交通の確保等の取組を検討・実施し、日常や観光の利用者増を図る。	・2022年度 山陰本線(福知山～城崎温泉)2,805人/日 山陰本線(城崎温泉～浜坂)721人/日 山陰本線(浜坂～鳥取)768人/日 播但線(和田山～寺前)972人/日 ・2023年度 宮津線(宮津～豊岡)1,905人/日
但馬地域一体で実施する公共交通を担う人材確保に向けた活動数 【2021年】- 【2026年】1回/年 【2031年】1回/年		但馬地域一体で実施する運転士確保を目的としたPR活動数	【達成状況】 ・6回/年《2024年度》 【分析】 ・活動数は目標達成。	・2024年度はバス運転士募集説明会・体験会を6回実施し、延べ68人が参加。 ・2025年度も引き続き、関係機関と連携して6回/年程度実施を予定。 ・運転士を確保するため、交通事業者による人材確保の取組を支援する。	・2022年度 2回 ・2023年度 6回